



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

中学

国語
一年

八月 第①週

〈おひき〉





みなさんにお知らせ

1. 質問があったら、メールをください。すぐお返事します。
 2. 自分が書いた文章を見てもらいたいときはメールで送って
くれば、直して送り返します。
- ❖ メールアドレスは、 Akiko@JPNCClass.com です。
 - ❖ 授業で使ったスライドはWebページ <http://JPNCClass.com> から
印刷やダウンロードができます。



お家の方へ

1. 授業で使う文章を印刷する際、お子さんのお手伝いをお願いします。
 2. ノートは特に規定はありませんが、漢字学習用と国語のノートの2冊を用意してあげてください。
 3. 質問や作文などの添削はメールで随時受け付けています。積極的に送るように、声掛けをお願いします。
- ❖ メールアドレスは、 Akiko@JPNCClass.com です。
 - ❖ 授業で使ったスライドはWebページ <http://JPNCClass.com> から印刷やダウンロードができます。

① 授業で使う文章を印刷してください。



印刷の仕方

1. Webページ <http://JPNCClass.com> へ行きましょう。
2. YouTube授業をクリックしましょう。



The screenshot shows the JPNC Class website homepage. At the top left is the logo for 'JPN Class Online school - 日本語で学ぼう'. Below the logo is the text '日本語で学ぼう! 小学生、中学生向けオンライン授業'. To the right of the logo are navigation links: 'お知らせ', 'YouTube 授業', 'オンライン授業', '講演会・セミナー', '講師プロフィール', and 'ご意見・連絡先'. The main heading is 'ようこそ JPN Class へ'. Below the heading is a paragraph of text about the school's purpose and services, followed by another paragraph about the types of classes offered. At the bottom left, there is a link to '詳しくは、オンライン授業、YouTube授業、講演会・セミナーのページをご覧ください。'. On the right side of the screenshot, there is an illustration of a person sitting at a desk with a computer monitor and an open book. The monitor displays the JPNC Class logo and a list of course options.

JPNCClassは、海外に暮らす子どもたちとご家族をサポートする目的で開設されました。子どもたちにオンラインでの国語などの授業を提供します。また、ご家族と海外での日本語教育や子育てについて共に考える講演会やセミナーを開催します。

授業は、オンライン授業 (Zoom)、ビデオ (Youtube)を通して提供します。現在お住まいの地域に日本語補習校など日本語を学ぶ学校がない、行く時間がない、あるいは自分のペースで日本語の勉強を進めたいといった子どもたちに最適です。

詳しくは、オンライン授業、YouTube授業、講演会・セミナーのページをご覧ください。

印刷の仕方

3. 中学1年の教科書をクリックしましょう。



トップ [YouTube 授業](#) ▾ オンライン授業 講演会・セミナー 講師プロフィール お知らせ
ご意見・連絡先

日本語で学ぼう！ 小学生、中学生向けオンライン授業

YouTube 授業

小学4年 国語

[YouTube チャンネル](#)

[YouTube ビデオ&スライド](#)



小学5年 国語

[YouTube チャンネル](#)

[YouTube ビデオ&スライド](#)



小学6年 国語

[YouTube チャンネル](#)

[YouTube ビデオ&スライド](#)



中学1年 国語

[YouTube チャンネル](#)

[YouTube ビデオ&スライド](#)



印刷の仕方

3. 中1国語 8月第1週 〈スライド (PDF)〉をクリックしましょう。

 JPN Class
Online school - 日本語で学ぼう！

トップ [YouTube 授業](#) ▾ オンライン授業 講演会・セミナー 講師プロフィール お知らせ
ご意見・連絡先

日本語で学ぼう！ 小学生、中学生向けオンライン授業

中学1年国語

[YouTube チャンネル中1国語 \(チャンネル登録をしよう\)](#)

YouTube ビデオ&スライド ライブラリー

8月

中1国語	8月第1週	<YouTube ビデオ>	<スライド (PDF)>
中1国語	8月第2週	<YouTube ビデオ>	<スライド (PDF)>
中1国語	8月第3週	<YouTube ビデオ>	<スライド (PDF)>

さつき

その年の夏は、いつもより長かった梅雨のせいか、積乱雲が海を染めはじめたときは、いきなり真夏の日差しになった。梅雨の間、家の中で絵本を読んだり、母親の晴の衣替えの手伝いをしたりで、手持ちぶさたな顔をしてた惺の身体が、青空が広がると、伸び上がるほど弾むのを正作は見ている。

「惺、青煙に笹を取りに行くか。」

「アオケムリ。」

「そうじゃ、青煙の峠へ笹を取りに行くぞ。」

正作は笹を横に振り上げるしぐさをして笑った。

惺は父の正作について、初夏の山に入り、したたるように甘いかおりを落とす真っ白な花をつけたくりの木の下を何度か抜けた。

首ま大きな罫り木の下で二手こげいし。左の首ま頁上に向かい、

た。
時おり、頭
ましく聞こ
になってい
さらさらと
杖切って飾
あざやかさ
にかがやく
のような彩

い松葉のこぼ。
黄金色



4.  がついているページを印刷しましょう。



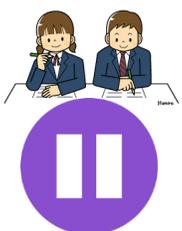
②必ず用意してください

- ・国語のノートと漢字ノート
- ・筆記用具

(赤ペン、赤えんぴつも必要)

③気をつけること

- ・大事だと思うところはノートに書いてください。
- ・「ビデオを止めてください。」と言われたら、ビデオを止めて、先生の指示にしたがってください。



- ・必要があるときは、ビデオを止めた
り、もう一度ビデオを見たりして
ください。

先週の宿題

1. 漢字

新しい漢字・新しい読み方の漢字の練習をしましょう。

2. 混同しやすい漢字

授業でやった「混同しやすい漢字」のプリントを見ながら、復習しましょう。

3. 文章の推敲・原稿用紙の使い方

推敲の仕方、原稿用紙の使い方を確認しましょう。

漢字テスト①

—の漢字の読み方を書きましよう。

- ① このカレーライスが**辛い**。
- ② トマトの**苗**を植える。
- ③ 派手な演出に心を**奪**われた。
- ④ **幻想**的な影絵。
- ⑤ 弟と背**丈**を比べる。
- ⑥ うさぎが**跳**ねる。
- ⑦ **紳士**服売り場。
- ⑧ 国家間の**紛**争を解決した。
- ⑨ 狭い道では**徐**行運転をする。
- ⑩ **新**郎**新**婦のために乾杯する。



漢字テスト①

—の漢字の読み方を書きましょう。
答え合わせをしましょう。

- ① このカレーライスは辛い。 からい
- ② トマトの苗を植える。 なえ
- ③ 派手な演出に心を奪われた。 うばわれた
- ④ 幻想的な影絵。 げんそうてき
- ⑤ 弟と背文を比べる。 せたけ
- ⑥ うさぎが跳ねる。 はねる
- ⑦ 紳士服売り場。 しんし
- ⑧ 国家間の紛争を解決した。 ふんそう
- ⑨ 狭い道では徐行運転をする。 じょこう
- ⑩ 新郎新婦のために乾杯する。 しんろう



漢字テスト①

—の漢字の読み方を書きましよう。

- ⑪ 明日**幾何**の授業がある。
- ⑫ **猫**の絵を**描く**。
- ⑬ 社会**福祉**を増進する。
- ⑭ 映画のチケットを**購入**する。
- ⑮ 空気の約五分の四は**窒素**だ。
- ⑯ 会場を一**巡**した。
- ⑰ 自己**紹介**をする。



漢字テスト① ーの漢字の読み方を書きましょう。

答え合わせをしましょう。

⑪ 明日幾何の授業がある。

きか

⑫ 猫の絵を描く。

ねこ／えがく

⑬ 社会福祉を増進する。

ふくし

⑭ 映画のチケットを購入する。

こうにゆう

⑮ 空気の約五分の四は窒素だ。

ちっそ

⑯ 会場を一巡した。

いちじゆん

⑰ 自己紹介をする。

しょうかい



漢字テスト① ーの漢字の読み方を書きましよう。

- ① この町は日本海に臨む。
- ② 海の幸に恵まれる。
- ③ 幼い姉妹が遊んでいる。
- ④ 彼は器が大きい人間だ。
- ⑤ 山が夕日に映える。
- ⑥ わたしの父は神主です。



漢字テスト① ーの漢字の読み方を書きましょう。

答え合わせをしましょう。

① この町は日本海に臨む。 のぞむ

② 海の幸に恵まれる。 さち

③ 幼い姉妹が遊んでいる。 しまい

④ 彼は器が大きい人間だ。 うつわ

⑤ 山が夕日に映える。 はえる

⑥ わたしの父は神主です。 かんぬし



漢字テスト②

—を漢字で書きましょう。

- ① このカレーライスは**からい**。
- ② トマトの**なえ**を植える。
- ③ 派手な演出に心を**うばわれた**。
- ④ **げん**そうてきな影絵。
- ⑤ 弟と背**たけ**を比べる。
- ⑥ うさぎが**はねる**。
- ⑦ **しん**し服売り場。
- ⑧ 国家間の**ふん**そうを解決した。
- ⑨ 狭い道では**じよ**こう運転をする。
- ⑩ **しん**ろう新婦のために乾杯する。



漢字テスト②

—を漢字で書きましょう。
答え合わせをしましょう。

- ① このカレーライスは**からい**。 辛い
- ② トマトの**なえ**を植える。 苗
- ③ 派手な演出に心を**うばわれた**。 奪われた
- ④ **げんそう**てきな影絵。 幻想的
- ⑤ 弟と背**たけ**を比べる。 背丈
- ⑥ うさぎが**はねる**。 跳ねる
- ⑦ **しんし**服売り場。 紳士
- ⑧ 国家間の**ふんそう**を解決した。 紛争
- ⑨ 狭い道では**じよう**こう運転をする。 徐行
- ⑩ **しんろう**新婦のために乾杯する。 新郎



漢字テスト②

—を漢字で書きましょう。

- ⑪ 明日きかの授業がある。
- ⑫ ねこの絵をえがく。
- ⑬ 社会ふくしを増進する。
- ⑭ 映画のチケットをこうにゆうする。
- ⑮ 空気の約五分の四はちっそだ。
- ⑯ 会場をいちじゆんした。
- ⑰ 自己しようかいをする。



漢字テスト②

―を漢字で書きましよう。
答え合わせをしましよう。

⑪ 明日きかの授業がある。

幾何

⑫ ねこの絵をえがく。

猫／描く

⑬ 社会ふくしを増進する。

福祉

⑭ 映画のチケットをこうにゆうする。購入

⑮ 空気の約五分の四はちっそだ。

窒素

⑯ 会場をいちじゆんした。

一巡

⑰ 自己しょうかいをする。

紹介



漢字テスト②

—を漢字で書きましよう。

- ① この町は日本海にのぞむ。
- ② 海のさちに恵まれる。
- ③ 幼いしまいが遊んでいる。
- ④ 彼はうつわが大きい人間だ。
- ⑤ 山が夕日にはえる。
- ⑥ わたしの父はかんぬしです。



漢字テスト②

—を漢字で書きましょう。

① この町は日本海にのぞむ。

臨む

② 海のさちに恵まれる。

幸

③ 幼いしまいが遊んでいる。

姉妹

④ 彼はうつわが大きい人間だ。

器

⑤ 山が夕日にははえる。

映える

⑥ わたしの父はかんぬしです。

神主





その年の夏は、いつもより長かった梅雨のせいか、積乱雲が海を染めはじめたときは、いきなり真夏の日差しになった。梅雨の間、家中で絵本を読んだり、母親の晴の衣替えの手伝いをしたりで、手持ちぶさたな顔をしてた惇の身体が、青空が広がると、伸び上がるほど弾むのを正作は見ていた。

5

「惇、青煙に笹を取りに行くか。」

「アオケムリ。」

「そうじゃ、青煙の峠へ笹を取りに行くぞ。」

正作は笹を横に振り上げるしぐさをして笑った。



10

惇は父の正作について、初夏の山に入り、したたるように甘いかおりを落とす真っ白な花をつけたくりの木の下を何度か抜けた。

道は大きな檜の木の下で二手に分かれた。左の道は頂上に向かい、右の道は少し曲がりながらなだらかなこうばいで続いていた。

惇は正作の腰に下がった手ぬぐいを握りあとに続いた。時おり、頭の上から松落葉が矢を射るように空を切って落ちる音が勇ましく聞こえ、何やら未知の世界に行くようで、冒険に出発する心地になっていた。

やがて前方に透き通るようにまぶしい新緑の竹林が風にさらさらと波を立てて現れた。それは一葉一葉が薄緑の色紙を一枚一枚切って飾りつけたような見事な林色をしていた。惇はこの色模様のあざやかさが、秋口、たそがれの海で潮が止まる瞬間、一様に黄金色にかがやく浜の水面に似ていると思った。ここだけが山の中で別世界のような彩りをしていた。

《言葉》

檜 暖かい土地に自生するブナ科の常緑高木。

松落葉 若葉が成長したときに、代わりに枯れ落ちる古い松葉のこと。

《新しい漢字》

《新しい読み方の漢字》

衣替ころもがえ

峠とうげ

抜ぬける

腰こし

冒険ぼうけん

薄緑うす

黄金色こ



「惇、こつちへ来い。いいか、小さい笹飾りのこのくらいの竹を十本ばかり頼まれてくれ。ほれ、この手鋸てのこで切ってこい。」

「うん。」

切ってみると、竹の長さは短かったり長すぎたりで案外と難しい。

竹は見た目より柔やわらかくてうまくの鋸の刃はが通らない。けれど背中まで正作の作業の音が聞こえると一人前の仕事をしているようで惇はうれしかった。七本ばかり取ったところで正作を振り向くともう二本目の大竹を切っていた。惇はあわてて残りの竹を切った。

檜の木までの帰りは惇が先頭を歩いた。二人の後方から正作のかついだ竹がしっぽのように葉音をならしながらついてくる。振り向くと正作が笑っていた。二人は檜の木の下に竹を置いて休むことにした。「さて、飯にしようか。この先に滝がある。そこで昼じゃ。腹が減つたらう、惇。」

「うん。」

言われると急に腹が泣くようにへこんだ。左の道を登るとききこり小屋があった。小屋の脇わきで老人が独り薪まきを束ねていた。日陰ひかげで仕事をしているせいか老人のいる場所だけが寒そうに感じられた。一本一本を丁寧に束ねている。くわえたたばこの煙が糸を引くようにゆっくりと林の中に吸いこまれていく。煙の流れる速さと老人の薪を束ねるテンポが合っていて、もう何十年もここでその仕事をくり返しているように思えた。

「精が出ますなあ。」

「う、うん。」

「雨もやつと上がって、よかったですな。」

「うん、ふもとの田んぼも助かつとるだろう。」

《言葉》

きこり小屋 山林の木をきるための拠点となる小屋。



「本当にね、去年のような**ひでり梅雨**なら、またみんなが泣くようになりますしね。」

「うんうん、今日はなんで山に来られた。」

老人は、巧みにたばこをくわえたままうなずいては正作を見上げる。

「七夕の竹を取りにきました。」

「いい竹はござったか。」

「ええ、まあ。」

「それはよかった。」

小屋の軒下に薄桃色の花をつけた木が並んでいる。

「ほう、**つつじ**ですか。」

「母ちゃんと同じ花じゃ。」

惇は花びらから花が好きな晴の声が聞こえるような気がした。

「父ちゃん、母ちゃんに持って帰ろう。」

正作はただ笑ってうなずいた。

「わしら、この先の煙滝けむりたきの岩場辺りで昼をとりますから。」

「岩場はまだ滑りますでの。気をつけたほうがいい。」

「ええ、どうも。じゃあまた。」

老人は惇を見て静かに目を細めた。惇は小さく会釈えしやくをした。

沢さわの道を二つ下り、木の橋を渡って坂道を登ると、やがて前方に大きな岩が見えた。その一枚岩をぐるりと回ってよじ登ると、目の前に中国山地の峰々が白くかすみながら、はるか日本海に向かって連なっていた。青煙から谷間にふき下ろす風が背中当たり、心地よく首元から抜けていく。惇はしばしの間、連なる峰に目を奪われていた。

七月の日差しを受けて青煙からの山水は滝となって下方で真っ白なしぶきを上げている。

《言葉》

ひでり梅雨 雨がほとんど降らない梅雨のこと。

つつじ ツツジ科の低木。四月から六月にかけて野山や庭にさく。

《新しい漢字》

軒下のき

桃色もも

峰みね

二人は一枚岩の上で晴の手弁当を開いて昼食をとった。水筒すいとうの中から麦茶のかおりが、ほうつと鼻に触つてのどの奥を通り過ぎていく。「惇は大きゆうなったら何になるのじゃ。」

「……。」

「まだわからんのか。」

「父ちゃん。」

「なんじゃ。」

「惇は大きゆうなったら……、船に乗りたいの。」

「ほおう、船にか。それもええ。」

「いろんなところへ行くんじゃ。父ちゃんも母ちゃんもみんないっしょに連れての。」

「ほう、連れていってくれるのか。けど、晴さんは泳げんぞ。」

「……大きな船じゃから大丈夫じゃ。この前、下関しもつけの港で見たくらい大きい船だから大丈夫じゃ。父ちゃんは行きたくないのか。」

「いいや。行くとも。楽しみじゃの。」

くちびるをかみしめながらすくっと立ち上がり夢を話す惇の真剣な瞳ひとみを、正作は目を細めて見つめている。惇は正作が六十歳を過ぎてから生まれた一人っきりの男の子だったから、授かりものをいただいたようでかわいくてしかたがなかった。

風に振り向くと青煙の頂に二羽の鳶とびが山おろしに羽をまかせて気持ちよさそうに回っている。雲は静かに流れていた。

「さて、惇、下りるとするかの。」
「うん。」

正作は腰バンドをしめ直すと折り箱をリュックの中にしまいパンパンとズボンたたいた。そうして両腕を大きく横に開いて腹を突き出すように伸びをすると、その腕を空に上げて腹の底から出たような声を上げ、大きく息をついて肩を落とした。

《言葉》

山おろし 山からふき下ろす風。

《新しい漢字》 《新しい読み方の漢字》

触るさわ

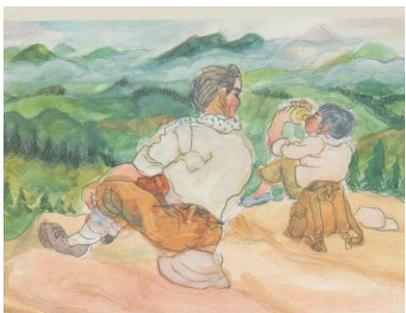
真剣けん

六十歳さい

両腕うで

肩かた

授かるさず



そうして正作は急に谷底をじっと見た。

「ちよつと待つとれ。」

正作は、谷の岩の下に何かを見つけたらしく、水音のする岩場の角に下りはじめた。

「そこで、待つとれ。危ないからこつちへは来るな。」

正作は大きな身体をかがめながら右手で岩をつかんで左足から足場を探るようにして谷の方へ向かった。頭が見えなくなるとサワツ、サワツと正作の岩草を分ける音だけが滝音に消え入りそうになりながら聞こえた。惇は言われたままそこにいた。正作が何を見つけたのだろうと待っていた。

そのとき、ドスンと鈍い音がした。

次にザアと、何かが枝を引つかきながら落ちていく異様な音が聞こえた。「おううつ。」とさけび声とも驚きの声ともつかない声が聞こえたかと思うと、ガラガラんと大きな岩ががけから落ちていくような音に続いて、それが谷底にぶつかるかわいた不気味な音がした。

惇はとっさに一枚岩の谷側に駆け寄ると、さけんだ。

「父ちゃん、父ちゃん。」

「……。」

「父ちゃん。」

するとまた、ズルルルと何か重い物が引き降ろされるような音がした。

「父ちゃん、父ちゃん。」

「……。」

惇は岩場ぎりぎりの斜面けいしやまで身を乗り出し、首を伸ばして谷底をうかがった。しかし惇の背丈では下の様子は見えない。両手で岩を握りしめて腹ばいになると、できるかぎり首を伸ばしてみた。おそろしい音のした辺りは、ななめに突き出た岩の真下に思えた。

「父ちゃん。」

かすかに枝がこすれ合うざわめきがした。

「父ちゃん。」

「来るな。」

《新しい漢字》

鈍い





腹からしぼり出したような正作の声が返ってきた。何かにすがりついているのか、押し殺した声だ。惇は正作の声がした方向を耳で探った。今度はメリツメリツ木の幹が折れる音がした。惇は顔を上げ岩場全体を見回してみた。左手の少し低い位置に惇のいる一枚岩と同じような岩がせせらぎを隔てて見える。惇は立ち上がると、その岩場に向かかって走りだした。小さな水たまりを幾つか作った流れは惇のひざの深さで渡れそうだった。一気に水の中に入ると向かいの岩から生えた小枝をつかみ、滑る岩肌をよじ登り岩の上へたどり着いた。惇は息もつかず、正作の声がした方向を見つめた。

それは、正作の身体を支えるにはあまりにも細い弱々しい松の木だった。岩間から横に八つ手の葉のように枝を広げた松に正作は宙づりでいた。しかも右手一本で大きな身体を辛うじて支えている。正作の体重を受けた松は幹を弓のようにたわませて、正作が足場を見つけたようと動いたたびに、今にも折れてしまいそうにたわんでいる。下方は真つすぐ谷底に吸いこまれるおそろしい空間があるだけだ。谷底は不気味な形をした大きな岩がどす黒い岩色をして待ち構えている。惇は何よりおびえさせたのは松の根元にみえる岩の亀裂^{きれつ}だった。正作はそれでも片方の手をなんとか幹まで届かせようとしていたが、動くたびに幹は異常なたわみ方をしていった。

メリツとまた幹が鈍い音を立てた。

「父ちゃん。父ちゃん、大丈夫か。」

正作が顔を上げた。顔を真つ赤に硬直^{じょうちく}させて、

「来るな……そこにいろ……来るな。」
と静かに惇に命じた。

「大丈夫か。」

正作は目を閉じて大丈夫だと惇に伝えた。

ガラツと音を立て上の岩肌から頭ほどの石が正作のすぐ横を落ちていった。カランカランと谷底で岩のぶつかる音が響いた。

「父ちゃん。待つとれ。そこへ行くから。」

「来るんじゃない。」

《新しい漢字》

岩肌^{いわだ}

今までみたこともない鬼のような目をして、正作は惇をにらみつけた。正作に近寄ろうとした惇の身体が一瞬打たれたようにかたくなった。実際、惇のいる岩から正作のいる場所までたどり着くのは子供の力では不可能であった。

正作は静かに左手を上げると、右手で幹を引き寄せるようにしてひざを曲げて身体を持ち上げた。メリツと、今度は本当に根元からおれるような音がした。正作の左手は幹をつかめなかった。

動作が止まったとき、惇は正作が右手を離してしまうのではないかと感じた。

「惇……人を、呼んで……こい。さっきの……きこり小屋のじいさんだ。すぐ行け。」

のどの奥からしぼり出したような低い声だ。

「わかった。すぐ、呼んでくる。待っとれ。すぐ呼んでくる。待っとれ。」

惇は正作の目をもう一度見ると、滑るように岩を駆け降りた。勢い余ってそのまませせらぎの中に腰から落ちた。たちまち上着までずぶぬれになった。一枚岩に上がると、見えない正作に向けて、

「父ちゃん、待っとれ。すぐ呼んでくるぞ、待っとれ。」

返事はない。それが惇をせきたてた。

一枚岩を真つすぐに下りると、来たはずの道はなく草と岩ばかりの場所がある。惇は来たときに通った、がけの赤土を探した。見つからない。一枚岩を振り返って、きこり小屋の方向を思い出そうとした。

見覚えのある**シダ**が見えた。シダに向かつて、小岩を踏み越えて走りだした。道はすぐに見つかった。惇はもううしろを振り返らずがけ沿いの道を懸命に走りだした。

《言葉》

シダ ワラビやゼンマイなどシダ類に属する植物の総称。

《新しい漢字》

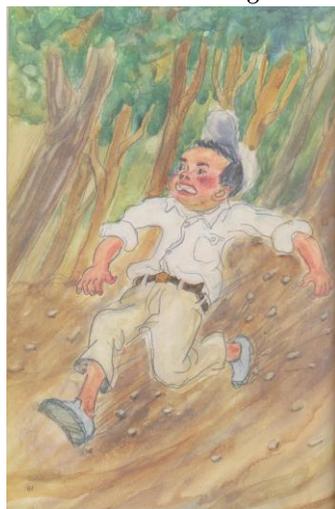
鬼おに 越こえる





途中、惇は二度ばかり地をはう木の根に足を取られてもんどり打つように倒れた。ピシヤリとのひらが地面を鳴らすと、ちくしよう、とさけんで起き上がり走り続けた。谷底できばをむいて不気味に正作を待っている黒い岩がうしろから追いかけてくる。水のはいつた運動ぐつがキュウキュウと泣くように声を出す。もう松の木は折れてしまったのではないだろうか。そんなことはない。正作はそんな人ではない。走りながら頭の中を巡るおそろしい光景を打ち消しながら、待つとれ、父ちゃん、がんばれ、と声を出して走った。

やがて、道は下り坂になり前方からせせらぎの音が聞こえた。もうすぐ橋があるはずだ。橋を渡れば小屋は近い。惇は足の裏全体でバタバタと音をさせながら坂道を下って行った。



橋は来たときよりも小さく見えた。惇は橋を渡ろうと板に足をかけた。すると橋の中央に縄のようなものが見えた。動いている。それはこれまでに見たこともないほど大きな**青大将**だった。二枚の板を遮るかっこうで頭を惇の方角に向けて静かに身体をはわしている。惇は立ち止まって蛇を見た。蛇は、この橋を渡さないぞ、と惇をにらみつけているかののように頭を動かさない。惇は足が震えた。正作の顔が浮かんだ。何か棒切れを探そうとしたが辺りに枝も石もない。ズボンを握りしめるとぬれたポケットに晴のくれたキャラメルの箱が触った。まだ封を切っていないキャラメルの箱を蛇に向かって投げつけた。

だが、箱は蛇をさけ、空を切って川に落ちていった。青大将は動く様子も見せず、ますます惇を見すえている。だれかが後方で笑っている気がした。青煙の生き物すべてが惇にいどみかかっている。こんなことをしていたら正作は死んでしまう。正作は必死で待っているに違いない。

《言葉》

もんどり打つように 宙返りするよう。

青大将 蛇の一種。全長は百く二百センチメートル。体の色は緑がかり、無毒。

《新しい漢字》

縄 なわ

遮る おほふ

蛇 へび

震える ふる

封 ふう



「どけえ、どけえ。どけえ。」

惇は歯をかみしめ、大声を出して蛇に向かって走りだした。橋は小さくゆれた。蛇が足首に巻き付いても構わないと思っただ。左の足に何か巻き付いている気がしたが、足元を見ずに橋を駆け抜けて雑木林の上り坂をきこり小屋に向かった。

小屋が見えると惇は大声を上げて老人を呼んだ。急に涙があふれて、走るたびに耳や頬ほおにかかった。

「おじさあん。おじさあん。」

小屋に着いたが、先刻そこで薪を束ねていた老人の姿が見えない。小屋の戸を開けると中は暗くてなにもわからない。目をこらしたがどれもいない。

「おじさん、おじさあん。」

惇はどうしたらいいのかわからなくなった。老人は引きあげてしまったのだろうか。小屋の外に出ると、束ねた薪の束の上にたばこと布包みがある。惇は声を上げて小屋の四方を呼んでみた。しかし惇のさけぶ声だけが薄暗い林の中に響いて返ってくるだけだ。それでも何度も呼び続けた。正作はまだ右手を離さず松の木にいるだろうか。いる。必ずいる。早くしなければ。正作を思うと涙がまた流れはじめた。声がかすれてしまう。

惇は、肩を震わせて当たりの音をうかがった。

すると、今しがた惇の走ってきた川の方から人の歩く気配がした。

老人の姿が見えた。

「おじさあん。大変だ。おじさあん。父ちゃんが岩から落ちた。早く早く助けてくれ。」

老人は惇の様子に驚いて言った。

「どうした……。。」

「父ちゃんが、父ちゃんが落ちた。」

「どうしたのじゃ。ゆっくり話せ。父ちゃんがどうした。」

「父ちゃんが滝の岩から落ちた。細い木にぶら下がって片手でつかまっとする。細いから、木が折れそうじゃ。おじさんをお呼んだ。早く、早く、死んでしまう。」



老人は滝の方角を見て小屋へ走ったかと思うと、肩から縄をかけてもどつてくるや、惇の手を取り川の方へ下りはじめた。走りだすと老人の足は驚くほど速かった。背は曲がっていたが、ぐいぐいと惇を引いて駆けていく。橋を渡ってがけの道に入ると、

「大きな岩の下だな、滝の上の、丸い平らな岩の下だな、わしは先に行く。坊はあとから来い。」

老人は惇の手を放すと、どんどん遠ざかっていった。惇はおくれまいとうしろ姿を追ったが、左へ曲がったがけ沿いの道で老人の姿は消えてしまった。

正作はまだ無事にいるだろうか。一枚岩を出てからもうずいぶんと長い時間が過ぎた気がする。それが三十分なのか一時間なのか惇にはわからなかった。正作がもし谷底に落ちて死んでしまったらそれは自分のせいだ。自分が早く人を呼んでこなかったからだ。蛇をおそれてうろろろしていた臆病な自分おくびょうが悪いのだ。冷たい谷底の岩の上に向つぶせたまま人形のように滝水にぬれている正作の姿が浮かんだ。惇は走りながら首を振って、その幻を打ち消した。顔を真っ赤にふくらませて笑っている正作が現れた。大丈夫だ、正作は生きている。しかし、赤い顔は笑うのを急にやめると、硬直して松の幹に必死の形相でつかまっている表情に変わった。

「お願いだから助けてください。」

惇は、だれに言うこともなくさげんでいた。

走りながら何度もくり返し助けをこうた。左手にそびえる青煙の頂に、正作を死なせないでくださいと願った。

岩場に近づけば近づくほど、惇の中に非情な深緑色の山の神様がおそつてきて、背中をドン、ドンとたたいた。がけの赤土が切れて岩場が見えると、惇は不安に胸がつまって息苦しくなった。それでも足を止めないで一枚岩の下に着くと声を上げて正作を呼ぼうとした。でも、黙だまって岩を回り、一枚岩の上へ駆け登った。

だれもない。

惇は耳をそばだてて辺りをうかがったがなにも聞こえなかった。急に肩とひざがぶるぶると震えはじめた。耳元が熱くなり口がかわいた。人の気配がしない。握りしめた手が汗ばんで指5の間をぬらしていた。

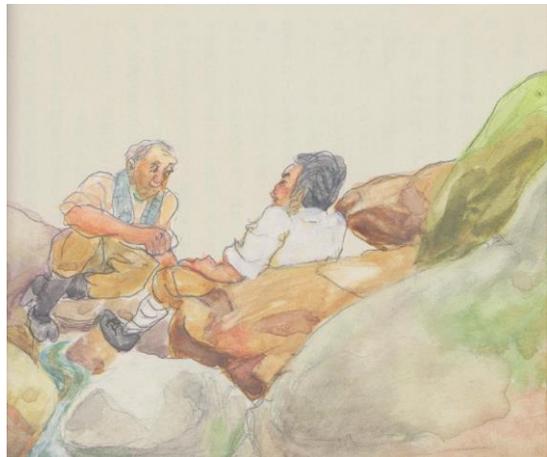
すると左の下の岩辺りから笑い声がした。笑い声は小さく聞こえて途絶えたかと思うと、前より大きな聞き覚えのある笑い声に変わった。

正作の声だ。

10

「父ちゃんあん。」

惇は正作を呼びながら声の方角へ走った。見下ろすと向かいの岩場とのぼろぼろ、山水が流れ落ちる場所にある岩の上に、正作は笑いながら老人と座っていた。



「父ちゃん。」

正作が笑って惇を見ていた。

「おお、惇、手をかけたなあ。」

「父ちゃん。」

惇は胸の中で、父ちゃん、ともう一度呼んで正作を見つめ直した。鼻の奥の方がつうんと熱くなって、のどの奥に鼻水が逆流し、泣きだしてしまいそうだった。泣くと正作に笑われる。必死になって笑おうとした。ズボン握りしめ、その手で髪の毛を思い切り引っ張った。そうして歯を見せるようにすると、やっと笑うことができた。にこやかな正作の顔を見ると、こぼれそうな涙が止まった。

正作は右腕をだらりと棒のように下げて、その腕に足元の水をすくってかけていた。左手で右手首をつかまえると持ち上げるように右腕を回した。正作の顔がひどいしかめつらになった。

25

「大丈夫かの。」

老人が心配そうに言った。

《新しい漢字》

かみ
髪の毛





「筋が切れてしもうたらしいです。」

「傷むのかの。」

「たいしたことはないです。なあに、もう木にぶら下がることもないですし。」

「まったくじゃ。えらい目におうたの。」

惇は岩を下りて二人のそばに行った。

「惇、何じゃ、川にでも落ちたか。」

正作に言われて下半身を見ると、ズボンはずぶぬれだった。正作の無事な声を聞くと、また涙が出そうで、

「う、うん。」

と言葉にならず首を横に振った。

あの松の木を見ると、一枚岩から下がった老人の縄が生き物のようにゆれながら谷底に垂れている。正作はあの間じゅうずっと片手であるの松を持ち続けていたのだろうか。谷底を見て、正作のたくましさに惇は感心した。岩肌にくずれそうな土色の草が風にざわめいている。座った二人もがけをじっと見つめていた。

「いやあ、えらい目におうたのう。この辺りの山も、もう年じやからの。雨のあがりっぱなで、岩もゆるんだんじやろう。」

正作は黙ってうなずいた。

「しかし、なんでまた、あそこに。」

「いやあ、ちよつと……。」

言いかけて、自嘲するじちようように左手で松の木の上方を指した。

「あれをちよつと摘んで帰ってやろうと、色気を出したんで。山の神様が怒ったんでしよう。」

見ると松の木の上の岩場にべにむらさきいろに紅紫色の花が咲いていた。

「おお、あんなところにさつきさつきじゃのう。」

《言葉》

さつき

ツツジ科に属するサツキツツジのこと。

観賞用に栽植されているが、関東から

以西の河岸の岩上に野生する。



老人は風にゆれるさつきの花をじっと眺めている。

「家の者が花好きで……いやあ、変な色気を起こすと山にしかられる。」

正作は気合を入れて立ち上がると、惇の顔をきゅつとつかんでから尻しりをポンとたたいた。そのまま一枚岩の上へ歩くと左の腕を肩に寄せるように回した。老人も立ち上がり縄をたぐりはじめた。惇は老人のそばに歩み寄って言った。

「おじさん。」

「なんじゃ。」

「ありがとう。」

老人は目を細めて惇を見るとうなずきながら、

「坊こそ、ようやったのう。えらいぞ。」

そう言って岩の上の正作に目をやった。

「たいしたもんじゃ。坊の父ちゃんは。あの大きな身体をずっと手一本で支えとったんじゃからのう。」

その言葉に惇も正作を見上げた。肩を広げた青煙の頂よりもずっと正作の肩は大きく見えた。

確かにそこに惇の正作が立っている。また、喜びが惇の胸の中でわき起こった。



全文の内容を読み取りましょう。

主題

次々に浮かぶ（ ）を打ち消しながら、勇気を奮って助けを呼びに走る様子と、助かった正作を頼もしく思い、父が生きている（ ）を感じる惇の様子を通して、父と子の間の（ ）を心に描いている。

語群

〈希望

不安

喜び

悲しみ

愛情〉

登場人物

惇：主人公の男の子

正作：惇の（ ）。惇は、正作が（

まれた一人っきりの男の子。

老人：滝のそばの（ ）で薪を束ねているところに、

（ ）と（ ）が通りかかり、話をした。

惇の様子

① 老人を呼びに行く場面

頭の中を巡る（ ）光景を打ち消しながら走る。

② 橋を渡る場面

（ ）におじけづいたが、正作が（ ）しまうと思い、勇気を奮って（ ）に向かっていった。

③ 岩場へ向かう場面

正作が死んだら、（ ）な自分は悪いのだと思い、谷底に落ちた（ ）の姿が浮かぶ。その幻を打ち消すと、正作の（ ）いる顔が現れたが、それはすぐに（ ）の形相に変わった。

④ 助かった正作に会った場面

正作の（ ）に感心した。岩の上に立つ正作の肩は（ ）よりずっと大きく見えた。

十一・十三枚目

十枚目

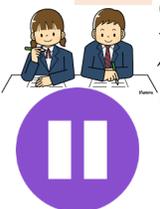
八枚目

八枚目

二枚目

四枚目

一生



全体の内容を読み取りましょう。

主題

次々に浮かぶ（不安）を打ち消しながら、勇気を奮って助けを呼びに走る様子と、助かった正作を頼もしく思い、父が生きている（喜び）を感じる惇の様子を通して、父と子の間の（愛情）を心に描いている。

語群

〈希望

不安

喜び

悲しみ

愛情〉

登場人物

惇：主人公の男の子

正作：惇の（父親）。惇は、正作が（六十歳を過ぎてから）生まれた一人っきりの男の子。

老人：滝のそばの（きこり小屋）で薪を束ねているところに、（惇）と（正作）が通りかかり、話をした。

惇の様子

① 老人を呼びに行く場面

頭の中を巡る（おそろしい）光景を打ち消しながら走る。

八枚目

② 橋を渡る場面

（蛇）におじけづいたが、正作が（死んで）しまうと思い、勇気を奮って（蛇）に向かっていった。

八枚目

③ 岩場へ向かう場面

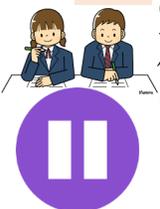
正作が死んだら、（臆病）な自分は悪いのだと思い、谷底に落ちた（正作）の姿が浮かぶ。その幻を打ち消すと、正作の（笑って）いる顔が現れたが、それはすぐに（必死）の形相に変わった。

十枚目

④ 助かった正作に会った場面

正作の（たくましさ）に感心した。岩の上に立つ正作の肩は（青煙の頂）よりずっと大きく見えた。

十二・十三枚目



宿題

次回の授業までにやる勉強です。**必ず**やりましょう。

1. 漢字

漢字テストで間違えた漢字の復習をしましょう。

2. 音読

「さつき」を読みましょう。

*長いですが、最低一回は最後まで読みましょう。



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

中学

国語 一年

年間学習表



7月 (夏休み=授業は3回)	6月	5月	4月		
		<p>体験したことを伝えよう スピーチの構成を考え、メモをもとにスピーチをしよう。</p>	<p>野原はうたう 好きな詩を、登場する生き物の気持ちになつて朗読しよう。</p>	<p>一年間の学習を通して 先生の話を聞き、学習を進めよう。</p>	<p>話す／聞く</p>
<p>文章の推敲と原稿用紙の使い方 推敲のポイントと原稿用紙のうえでの推敲の仕方を知ろう。 原稿用紙の決まりを確かめよう。</p>	<p>情報を文章にまとめよう 自分の身の回りのことについて、情報を集め、文章にまとめよう。</p>	<p>体験したことを伝えよう スピーチの構成を考え、スピーチメモを書こう。</p>	<p>野原はうたう 自分の好きな生き物を選んで、詩を作ろう。</p>	<p>新聞記事 記事の要約をし、記事に対する自分の意見や感想を書こう。</p>	<p>書く</p>
<p>光と風からもらった贈り物 筆者が「高原」のどんなところに、言葉の豊かさを感じているかをとらえよう。</p>	<p>クジラたちの声 クジラの情報伝達に関する二つの問いをおさえ、音の役割、海中での情報伝達に音が最適である理由をつかもう。</p>	<p>ちよつと立ち止まつて 各図の説明を通して、ものの見方について、筆者が述べていることをとらえよう。</p>	<p>野原はうたう 作者が生き物の姿にどんな思いを感じているかを、読み取る。 にじの見える橋 少年の行動や心情に着目し、にじを見る前とあとの気持ちの変化をとらえよう。</p>	<p>新聞記事 新聞記事を読もう。</p>	<p>読む</p>
<p>混同しやすい漢字 形が似ていたり音が同じであったりする漢字を知り、間違えて使わないように気をつけよう。</p>	<p>言葉の単位 文節や単語に区切る方法を知ろう。</p>	<p>漢字の組み立てと部首 漢字の部分のよび名と表すものを覚えよう。</p>	<p>話し言葉と書き言葉 話し言葉と書き言葉の違いをおさえよう。</p>		<p>言葉</p>

1 2月 (冬休み=授業は3回)	1 1月	1 0月	9月	8月 (夏休み=授業は3回)	
	<p>いろは歌 仮名のみの原文を、 古文の調子にのって 読み、聞いてもらおう。</p>				話す／聞く
<p>未来をひらく微生物 環境問題について課 題を見つめ、レポー トにまとめよう。</p>		<p>大人になれなかった 弟たちに・・・ 心に残ったこと、自 分の生活と比べてど んなことを考えたの か、感想文を書こう。</p>	<p>手紙を書こう 手紙の形式を知り、 目的や相手を考え、 手紙が書けるようにな ろう。</p>	<p>さつき 読み取った内容を、 自分自身の体験と重 ねて感想を書こう。 読書記録 読んだ本の読書記録 を書いて残そう。</p>	書く
<p>未来をひらく微生物 自然の仕組みの中で、 微生物の働きが、環 境問題の解決どのよ うに利用されている のか読み取ろう。</p>	<p>いろは歌 古文の言葉の響きや 調子に読み慣れよう。 蓬菜の玉の枝 古典に対する興味や 関心をもつて読もう。 今に生きる言葉 漢文独特の言い回し に慣れよう。「矛盾」 がどんなエピソード からどんな意味に 使われるようになった のか確かめよう。</p>	<p>大人になれなかった 弟たちに・・・ 表現に着目し、登場 人物の心情や作者の 思いを読み取ろう。</p>	<p>麦わら帽子 麦わら帽子やカモメ に対するマキの気持 ちと、その移り変わ りを読み取ろう。</p>	<p>さつき 助けを呼びに走る場 面や、助かった正作 を見上げる場面の、 惇の胸中を表す言葉 に注目して読もう。</p>	読む
<p>文の組み立て 文の成分のそれぞれ の働きや、文節どう しの関係を理解しよ う。</p>	<p>古典の言葉 文語と口語の違いを 考えよう。 漢字の音訓 音と訓それぞれの読 み方と、意味を考え よう。</p>	<p>漢字四字の熟語 漢字四字の意味をお さえよう。</p>	<p>漢語・和語・外来語 漢語・和語・外来語 の分類ができるよう になろう。</p>		言葉

	3月	2月	1月 (冬休み=授業は3回)	
		心に残る思いで読み手の興味を引くように、発表しよう。		話す／聞く
	言葉調べよう 言葉についての課題を調べ、資料にまとめる。	心に残る思いで、今までの経験で、自分が成長したと思えることや、変わったと思うことを思い出して、文章にまとめよう。	江戸からのメッセージ 江戸の知恵を今の時代に生かせることは何か考え、それをまとめよう。	書く
	胸の底の人と言葉たち 人や言葉との出会いを読み取り、筆者がわたしたちに願うことは何かを考えよう。	少年の日の思い出登場人物の心情の移り変わりをとらえ、生き方を考えよう。	江戸からのメッセージ リサイクルを徹底した江戸っ子の生活と、そこから導かれた筆者の主張をつかもう。	読む
〈一年生の漢字〉 一年生で習った漢字の復習をしよう。	漢字の成り立ち 漢字の成り立ちをおさえ、成り立ちで意味や読みを類推できることを知ろう。	指示する語句と接続する語句 指示する語句と接続する語句の種類や用法を理解しよう。	辞典を活用しよう 国語辞典、漢和辞典の使い方を知り、実際に様々な言葉を調べよう。	言葉



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

中学

国語一年

八月 第1週

「いいね」

「チャンネル登録」

よろしくね！

また来週。

